

(様式3)

令和6年度新たな課題に対応した人権教育研究推進校事業報告書

学 校 名	丹波市立青垣中学校		校長名	井本 健吾		教員数	17	
所 在 地	〒669-3812 兵庫県丹波市青垣町小倉365-1 T E L 0795-87-0212 F A X 0795-87-0420 Eメール aogaki-jhs@tamba.ed.jp							
学 年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特別支援学級	計
学 級 数	2	2	2				2	8
児童生徒数	54	45	39				10	148

研究の概要

1 研究主題

「 多様な価値観を認め合える教育の推進 」

～自己理解・他者理解を深めるすべての教育活動～

2 研究の経緯

○研究の背景となった当初の学校、生徒の状況や課題

本校は、令和6年度児童養護施設『睦の家』から7名の生徒が通学する。その中には落ち着いた生活を送れている生徒がいる一方、生育歴等により、生活リズムが整わず不安定な生活を送っている生徒もいる。そのため心のケアを継続しながら、他の生徒が受け入れ支える学校づくりが求められている。

また、本校には日本語が話せない外国にルーツをもつ生徒が1名在籍する。多文化共生教育を通して異文化理解を深め、心の安定や生活適応、学習支援を図る等、学校生活への適応を推進するとともに、他の生徒が受け入れ支える土壌づくりも必要となっている。

SNS 等によるいじめ事案も発生していることもあり、多様な価値観を認める教育を推進し、自己理解・他者理解を深める取組をさらに充実させていく必要がある。

○研究のねらい

(1) 多様な価値観を認め、自他ともに大切にする人権教育の充実

- ・相手の立場に立って考え、自分事として捉えられる想像力を高められるしかけづくり
- ・差別やいじめを許さない意識と実践力の育成をめざす取組
- ・人権教育資料の効果的な活用

→生徒の心を揺さぶるタイムリーな指導内容や方法の開拓と授業実践の追究

(2) 人権教育における地域・家庭との連携強化

- ・児童養護施設『睦の家』や家庭、地域と連携した人権教育の在り方

→青垣地域小中高教職員の連携、児童生徒理解の推進

○具体的な取組

月	日	曜日	内 容
4	2	火	職員会議において昨年度の研修内容の確認と今年度の方向性を提案
4	15	月	第1回研究推進委員会（各学年の取組・生徒の意識調査について）
4	22	月	兵庫県弁護士会法教育委員会弁護士講師派遣申込
5	1	水	第2回研究推進委員会（アンケート項目の見直し・教科の授業者決定・PTA 人権講演会について）
5	15	水	第3回研究推進委員会（実践報告資料の検討）
5	17	金	生徒人権意識調査アンケート第1回実施
6	3	月	第1回人権教育研究推進校連絡会（県庁3号館）
6	6	木	第4回研究推進委員会（アンケート結果・夏季校内研修会について）
6	12	水	人権ハピネス開講式（人権教育事業）
6	26	水	第5回研究推進委員会（人権講演会・夏季校内研修会・各学年の取組について）
7	9	火	PTA 人権講演会（弁護士：寺西惇展氏『SNS と人権』）
7	19	金	校内研修会①（2年生「総合的な学習の時間」、トライやる・ウィークの実践報告について）
8	5	月	第1回カウンセリング研修（中野 SC「子どもへの声かけについて」）
8	19	月	夏季研修会（小中高連携）（島田妙子氏「こどもたちの笑顔を守るために私たちにできること」）
9	2	火	第6回研究推進委員会（2学期の研修計画について）
9	20	金	第7回研究推進委員会（1年道徳の授業・研修のもち方について）
10	22	火	第8回研究推進委員会（1年道徳授業指導案検討・事後研修について）
11	1	金	第2回人権教育研究推進校連絡会（豊岡市立城崎小学校）
11	7	木	第9回研究推進委員会（3年生特別活動の指導案検討）
11	12	火	1年生道徳公開授業
11	29	金	第10回研究推進委員会（2学期の研修会のもち方について）
12	4	水	人権ハピネス閉講式（人権教育事業）
12	11	水	3年生特別活動公開授業
12	18	水	第11回研究推進委員会（ふり返りアンケートについて）
12	25	水	校内研修会②（1年生「道徳」・3年生「特別活動」の実践報告について）
1	8	水	生徒人権意識調査アンケート（ふり返り）第2回実施
1	9	木	第12回研究推進委員会（校内研修会③のもち方について）
1	22	水	第13回研究推進委員会（生徒人権意識調査アンケートの考察）
1	29	水	3年生保健体育公開授業、校内研修会③（3年生「保健体育」事後研修・1年間の成果と課題について）
1	30	木	第3回人権教育研究推進校連絡会（稲美町立稲美中学校）
2	17	月	第14回研究推進委員会（事業報告、成果と課題について検討）
2	25	火	第2回カウンセリング研修（中野 SC「愛着障害について」）

3 研究の成果と課題

研究指定2年目となる今年度は、4月当初から全体で、昨年度の課題をもとに協議し、計画を立て、各教科等の代表と学年から担当者を推進委員にして分担を決め、各教科等の授業内容を検討し

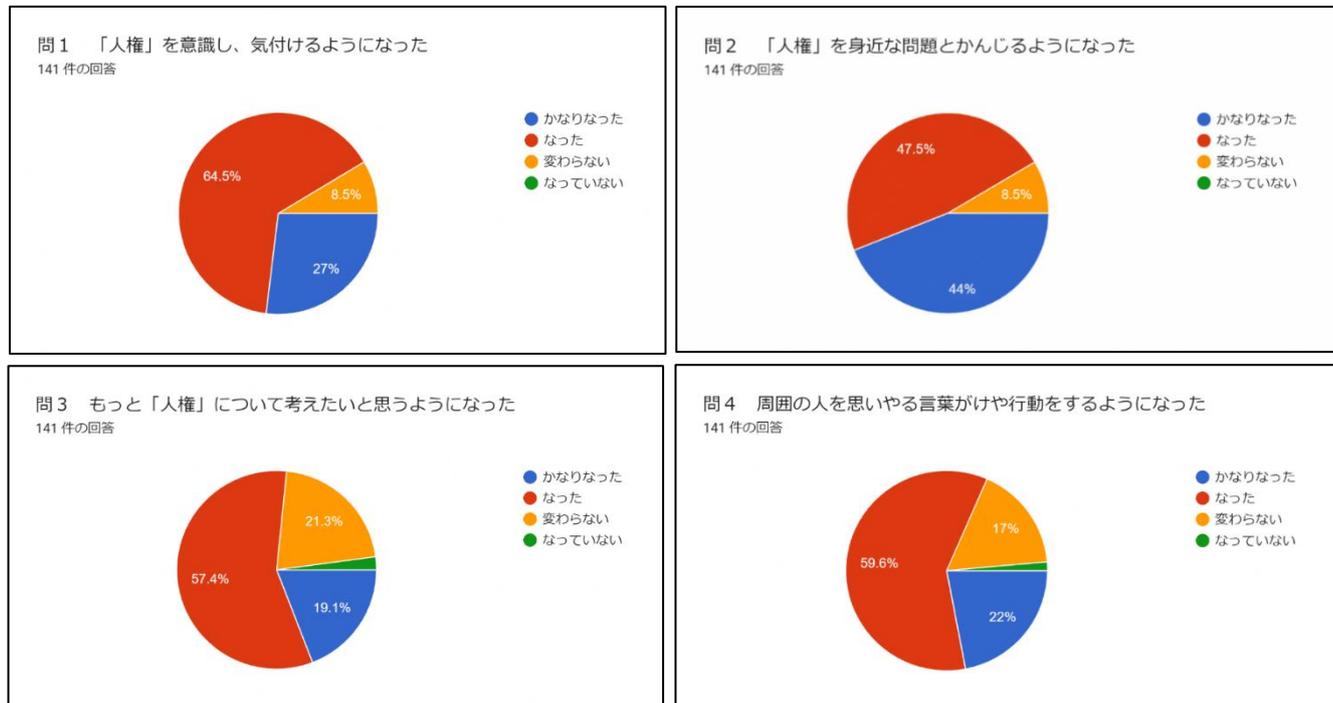
た。昨年より1か月早い5月17日に生徒の人権意識調査を行った。（この調査の質問項目も、本校で昨年度作成し、さらに修正を加えて実施した。）

特に、今年度は、前年度末に生活指導上の問題にもなった、SNSの正しい使い方と人権の課題を結び付けた取組を柱に、生徒の実態をふまえて各学年の取組を考えた。

【生徒の意識調査の結果から】

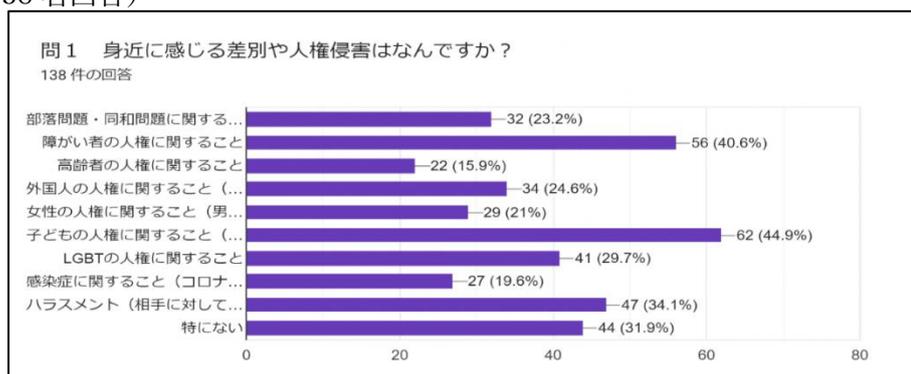
◎ふり返り（2回目のみ実施）

*人権の学習を通してどのような力をつけ、行動できるようになったか、ふり返ってみましょう。

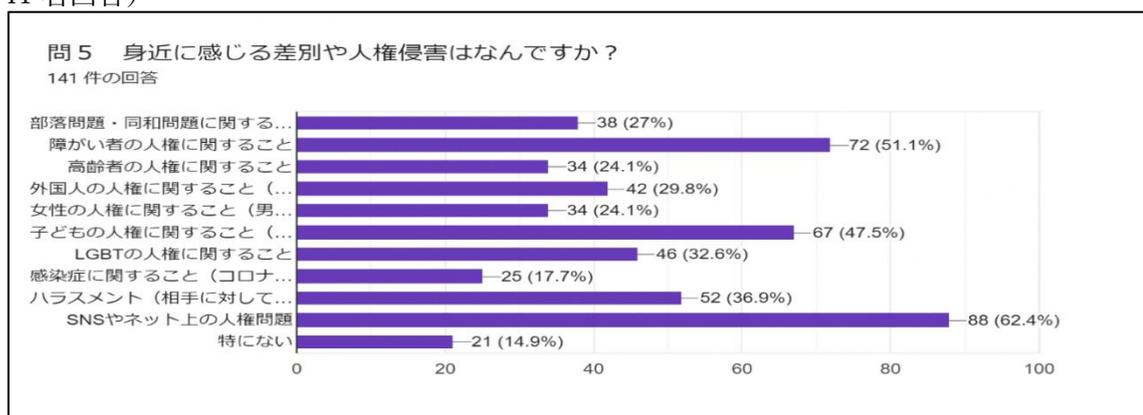


◎人権に関するアンケート比較結果（1回目5/17、2回目1/8 実施）

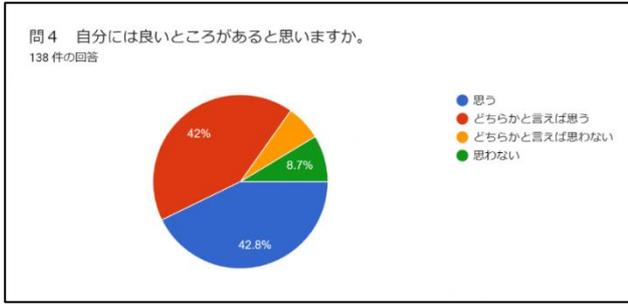
1回目（138名回答）



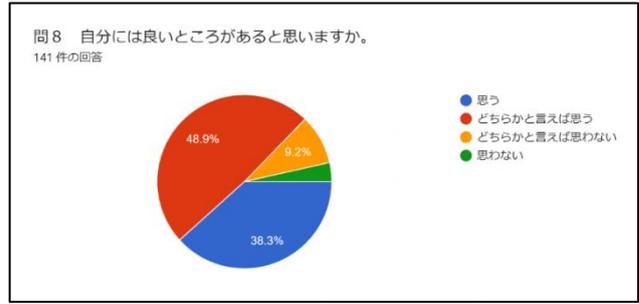
2回目（141名回答）



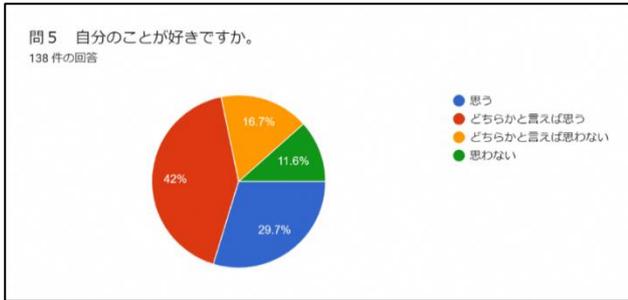
1 回目 (138 名回答)



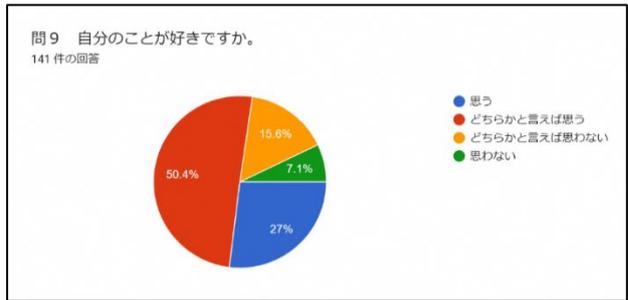
2 回目 (141 名回答)



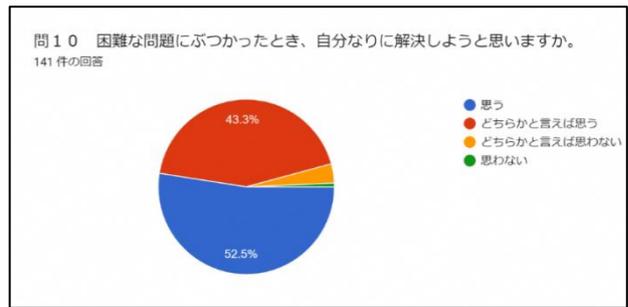
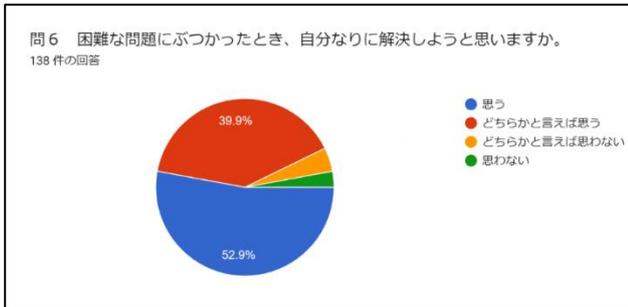
1 回目 (138 名回答)



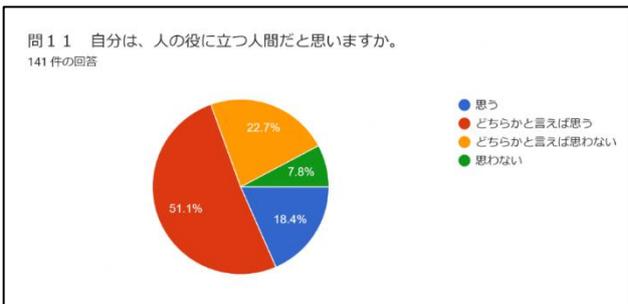
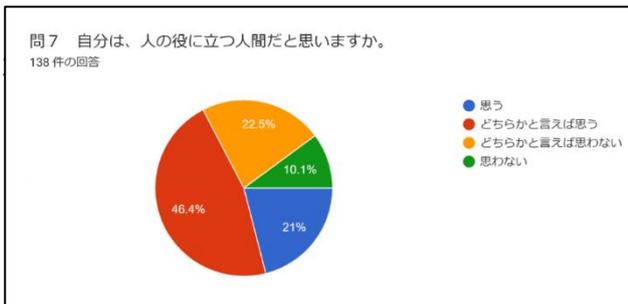
2 回目 (141 名回答)



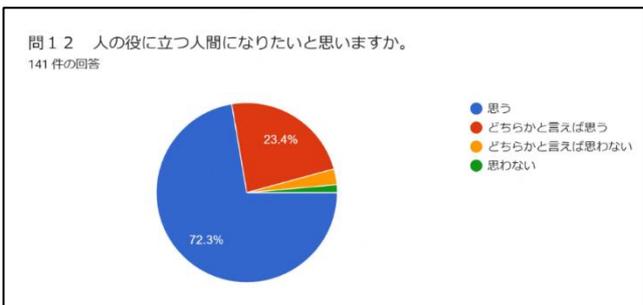
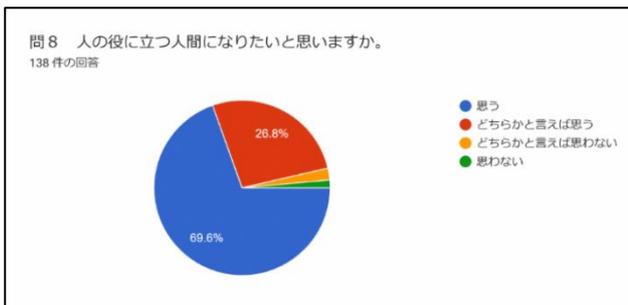
1 回目 (138 名回答) 2 回目 (141 名回答)



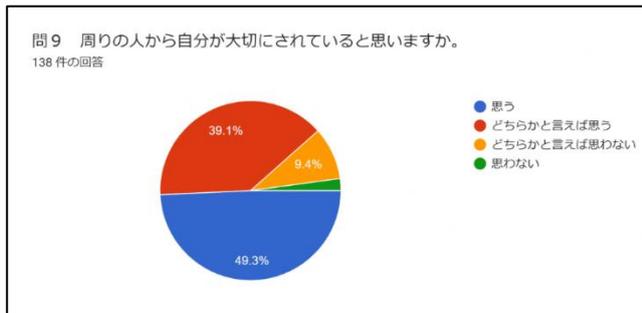
1 回目 (138 名回答)



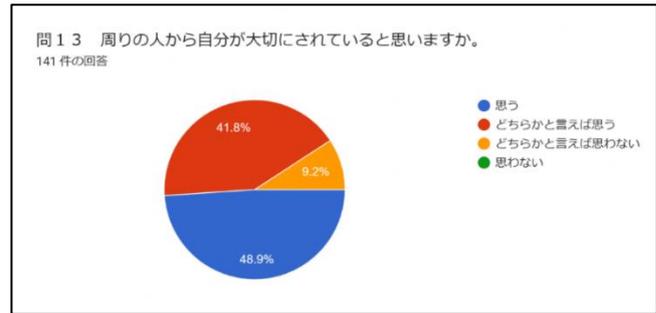
1 回目 (138 名回答) 2 回目 (141 名回答)



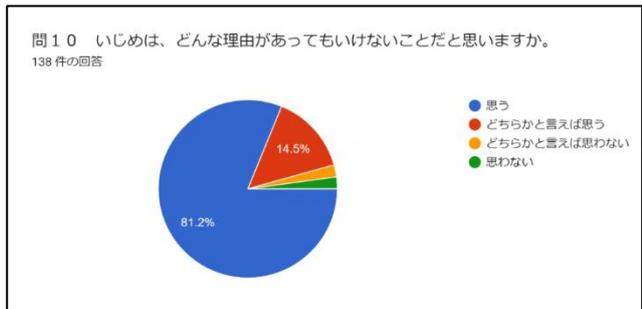
1 回目 (138 名回答)



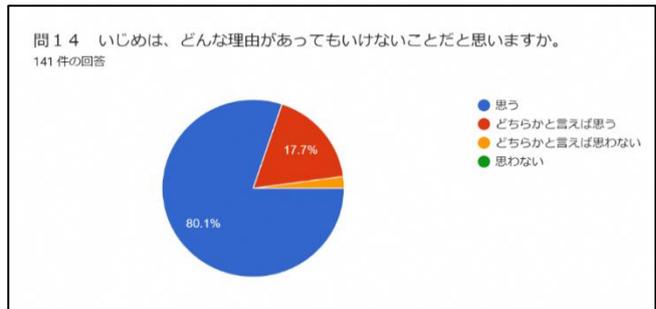
2 回目 (141 名回答)



1 回目 (138 名回答)



2 回目 (141 名回答)



【成果】

(1) 多様な価値観を認め、自他ともに大切にすること人権教育の充実について

- ・「多様な価値観を認め、自他ともに大切にすること人権教育の充実」という点においては、生徒自身のアンケート結果からも、自尊感情や自己有用感の高まりを見ることができた。また、人権課題に対してもやはり学習を経験することで関心が高まり、人権意識も高まったと感じる。
- ・授業等で学んだことについて、学校生活の中では自分で正しい行動ができる生徒が増えた。(生徒アンケート結果においても、82%の生徒が「行動するようになった」と答えている。)
- ・「差別やいじめを許さない意識と実践力の育成をめざす取組」については、今回「いじめ」を正面に掲げる授業実践を行ったわけではないが、様々な人権に関する学習を通して、「いじめ」が人権侵害であり、他者の人格を尊重しない行動であることがより自覚できたと思う。いじめを容認する意見が0%になったことがその反映ではないか。
- ・「新たな課題に対応した人権教育」研究に取り組んだことで、職員室内で、人権や子どもの様子についての会話が増えた。「相手の立場に立って考え、自分事として捉えられる想像力を高められるしかけづくり」という点では、教師自身が何をどのように教材化するか、常にアンテナを高くしてタイムリーな話題を探し、生徒自身の体験と結び付けて考えられるようにする工夫を行った。また、いかにして生徒の心を揺さぶり、生徒自身が自分ごととして感じ考えられるようにするか、創意工夫を職員同士で意見交換し、授業づくりを行うことができた。
- ・他人に興味をもたないところに人権意識は育たない。そこで、毎日のSHRでの友だちの「いいところみつけ」や「話法」の活用など、「常に他人に興味をもつ」ことを意識づけたり、話し方や聞き方の方法を実践したりすることで、自他を認め合い、他者から学ぶ姿勢を育て、人権意識を育てる土台を作ることができた。
- ・「人権」＝差別問題、という風にとらえる生徒が多いが、「人権」は特定の人のものではなく、すべての人が平等にもつ「幸せに生きる権利」であり、特別なこととして語るのではなく、日常の

様々な生活と結び付けて考えることであると意識させることができた。また、教科の学習の中でも様々な「新たな人権課題」と結び付けて考えさせることを意識することができた。

・今年度、実施した「新たな課題に対応した人権教育」のテーマ

- ・ジェンダー平等教育 虐待（子どもの人権）（家庭科）
- ・ヤングケアラー、生活保護、社会福祉の考え方、子どもの権利条約など（道徳）
- ・外国にルーツをもつ生徒との共生や彼がもつ文化への理解（道徳）
- ・ユニバーサルデザイン、SDGs、だれもが幸せに生きられる社会とは（総合）
- ・クローン技術についてクローン人間の是非について（理科）
- ・障害者理解（パラスポーツ）、防災（災害時の外国人）、人種差別（ガンジー）、国際協力（ランドセル）、ヘイトスピーチなど（英語科）
- ・ピカソ 青の時代、ゲルニカについて知る（美術科）
- ・自分と他者を大事にする気持ちを育むために、心の健康に関する教材づくり（養護教諭）
- ・ネット上での誹謗中傷（道徳、特活）
- ・人権作文弁論大会において、児童養護施設の理解や色覚特性について理解（道徳）
- ・友だちの「いいところみつけ」（特活）

など

(2) 人権教育における地域・家庭との連携強化について

- ・今年度は、2つの講演会をPTAや地域の小学校、高等学校と連携して行うことができた。
- ・一つ目は、生徒と保護者を対象とした人権講演会で、PTAと連携して行った。講師は兵庫県弁護士会が派遣して下さる現役弁護士の方で、「SNSと人権」をテーマに講演していただいた。今回の講演は今までとは違う「人権」問題としての視点で行われた内容だったので、生徒には新鮮だったようである。
- ・二つ目は、職員対象の講演会である。本校の校区には児童養護施設があり、そこから通う生徒が7人在籍する。様々な課題を抱え、丁寧な対応が必要であると感じている。そんな生徒を理解するために、ご自身も養護施設で育ち、現在兵庫県児童虐待専門アドバイザーや関西大学の客員教授をされている島田妙子さんをお招きし、町内の小学校と高等学校にも広げて講演を聴くことができた。小・中・高連携で行ったことで生徒の見方や対応について共通理解することができた。
- ・『総合的な学習の時間』を2年生の「トライやる・ウィーク」の取組と関連付けて行った。1年生の時には障害者理解の取組で、アイマスク体験や視覚障害者の方との交流を通じて、「だれもが大切にされる社会」の在り方や自分自身の行動・生き方について考えさせてきた。その発展として、今回はSDGsやユニバーサルデザインについて学習し、世界の課題でもあるそれらが身近な地域社会や事業所でどう生かされているか、また何が必要かを考えさせる取組を行った。「トライやる・ウィーク」の事前指導の中で各事業所にも学習の趣旨を説明し、協力を依頼した。外国にルーツをもつ生徒も、この活動を通じてクラスの中での交流を深めることができた。

【課題】

- ・様々な課題をいつどのタイミングで学ばせるか、教科等の学習も踏まえて、系統的計画的に行う必要がある。また、小学校での学習内容を引き継ぐために、小中で連携をとることも必要である。
- ・生徒の行動変容については、まだまだ課題が残ると感じる。学年によっては、自分と違う価値観や意見をもつものに寛容でなく、攻撃的な態度を表したり、避けたり、除外しようとしたりする生徒も依然見られる。
- ・知識として知ってはいるが、実際に課題に直面したとき、行動ができる生徒はまだ少ないと思う。リーダーとして前に出ている生徒は見られているという意識から行動を変えようとする姿が見られるが、リーダーを支える立場の生徒がどこまで変わることができるか。これからも、すべての生徒に声をかけ続け、自他ともに大切にされていると感じられる指導を継続していくことが大切である。
- ・多様な価値観等を受け入れていく、認めていくということは言葉以上に難しさを感じる。他者に対する寛容さが必要である。共に生きていくためにどうあるべきなのか、大人も子どもも考えていく必要がある。
- ・インターネットを使う時間が加速度的に増えていく中、生徒たちが授業等で学んだことを学校生活外にもつなげていけるように取り組んでいくことが必要である。
- ・道徳が教科化され、教科書以外の教材を道徳の時間で取り扱う時間が減りつつある中で、この2年間の「新たな課題に対応した人権教育」の研究は大変有意義なものであった。これまで年間35～38時間の道徳の学習を「教科書」を使って進めてきたが、それに加えて、今回のように『きらめき』を活用したり、県の人権啓発ビデオやニュース動画など視聴覚資料を活用したりして、生徒自身の生きざまに訴えるような学習活動をもっと取り入れていく必要を感じた。そのためにも道徳の年間計画を見直し、義務教育終了までに学ばせるべき人権学習を位置付けて今後も継続的に取り組んでいきたい。そして、この多様性の時代にこそ、豊かな人権感覚と思いやりの心を持ち、人権文化、人権社会を担う次世代の子どもたちを育てていきたい。